

「さわやか西中 誰からも愛され、応援される生徒を目指して」

平成27年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年3月4日(金)発行 第 44 号

和暉くん、志帆さんに中体連賞

全会津中体連から贈られる中体連賞に、本校から金子 和暉くん、菊地 志帆さんが選ばれました。

中体連賞は、その年に中体連の大会で活躍した生徒に贈られるもので、各種大会で優秀な成績を収めることはもちろんですが、「部活動でリーダーとして優れ、他の生徒の模範であったもの」という規定があります。



いくら大会で優秀な成績を収めていたとしても、日頃の言動が好ましくなかったり、学習がおろそかであった生徒は該当しません。各校1名、特例として2名までは贈られますが、上記のような理由で受賞者がいない場合もあります。

本校で受賞した2名は、ご存じのように部活動に一生懸命励み、その一方で学習もおろそかにしなかった模範となる生徒でした。受賞を誇りに思い、今後も精進することを祈っています。

同窓会入会式

3月1日、猪股 勝会長をお迎えし、平成27年度西山中学校同窓会入会式が行われました。

昭和22年4月1日新制中学校の発足と同時に開校した本校からは、昨年度末までに2888名の卒業生を輩出し、同時に本校同窓会が組織されています。



この度の入会式で、正式に同窓会としての入会が認められ、2889番目から2896番目までの会員となります。猪股会長からは卒業と入会記念として、代表の杉原 友稀さんにペンケースが贈られました。

また、同時にPTAから生徒会功労賞として生徒全員に記念品が贈られ、PTA会長の菊地会長から代表の杉藤 美和さんに手渡されました。

※昨日はお忙しい中、保護者会にご参加いただきありがとうございました。平成27年度の本校教育活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

ひしストラップを作っていました 学校支援ボランティア

2月22日、23日の両日
にわたり、4名のボランティアの方
にお越しいただき、ひしストラップ
の仕上げ作業を行っていただき
ました。

お手伝いいただいたのは、金子
美紀子さん、猪股タミ子さん、菊
地タカ子さん、そしてお声がけを
していただいた町のスクールサポ
ーターの菊地由枝さんの4名。



これまで地域の方に全てを作っ
ていただきましたが、今回はデザ
インに統一性を持たせるため、
最終の仕上げ段階を4名の方に
担当していただきました。



ひしストラップは、地域の方のご
協力により、認知度も上がり、
各販売所でコンスタントに売れ
ています。今後も冬のでなぐさ
みとして地域で作られ、おみや
げとして定着していけばいいな
と思っています。

なお、一連の活動で得られた収
益金は、アントレプレナー育成
教育の一環として生徒に還付
する予定です。このことによっ
て、「起業」を実感してもらいた
いと思います。

何も咲かない冬の日…

先日香緒理先生が校長室に泣きながら入ってきました。先日行ったNRTの結果の報告でした…。泣きながらです…。

実は、昨年の成績と比べて、偏差値で2ポイントも上がっていました。西山中学校の学力が低下傾向にある、このままでは希望する進路を実現させてあげることができない…。ということで、学校をあげて学力向上のための取り組みをしてきた成果です。



香緒理先生は、「子どもたち本当によく頑張ったんです。誰一人文句をいう生徒もなく、本当に一生懸命で…。私のいうことを信じてついてきてくれたんです。こんなすばらしい生徒はいません！」って。

生徒のがんばりを、涙を流しながら喜ぶ先生、そして一旦決めたら本当に一生懸命やる生徒たち…。本当にすばらしい学校だと、私も一瞬「やばく」なりました。

さて、本当に残された期間が少なくなりました。

ある雑誌にこんな話が載っていました。「何も咲かない冬の日は、下へ下へと根を伸ばせ」シドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんの座右の銘です。高校時代から、このことばを自分の練習の支えとしてきたそうです。

ところが、このことばのもとになった京都大徳寺大仙院の和尚さんに高橋選手の話をする、穏やかだった和尚さんの顔が一変し、険しい顔になったとのこと。

「これはそんな意味やないんや。いつかとか、将来のためじゃなく、今このときの自分を最高に生き切るという意味なんや」

宗派に伝わる大事なことば、考え方を、現代人の浅知恵で汚されたと感じられたようで、激しくそうおっしゃったようです。

年度末の今、確かに残された日々は限られていますが、冬の今は冬にしかできないことに全力を尽くすことが大事です。いつかのためではなく今のために最高の自分を生き切る。その結果として最高の結果がついてくる…。私たちも、「何々のために」ではなく、今にしかできないことに最善を尽くす週にしていきたいものです。(平成28年2月29日集会講話より)